

THE RECORD

日本レコード協会65周年特集

日本のレコード産業 半世紀の歩み

文化審議会著作権分科会

法制問題小委員会・私的録音録画小委員会中間まとめ等の概要

社団法人 日本レコード協会



RIA
Recording Industry Association of Japan

母なる川、ナイル

株式会社ポニーキャニオン
代表取締役社長 桐畑敏春



「太陽の船」の前で

最近、世界遺産を訪ねる機会が多い。長安、ローマ、アンコールワット等々、今年はサイバー大学学長（早大客員教授）の吉村作治先生と、個人的なエジプト8日間の旅をする機会に恵まれた。

ギザ台地のピラミッドコンプレックス、早稲田大学隊の発掘現場、ルクソールから王家の谷、スーダンとの国境の町気温40℃以上のアブ・シンベル、そしてカイロ博物館、旧市街地区等々、5,000年以上の歴史を持つエリアを堪能した。

エジプトから北アフリカ一帯は今でこそ乾燥地帯だが、ローマ時代以前は豊かな穀倉地帯で、ギリシャ人やローマ人の食料生産地だったらしい。

我が国が、縄文、弥生の時代、すでに相当な文化を持った生活をしていたことは知られているが、蒸気機関や電気等のいわゆる産業革命以降の発明、発見を除けば、古代エジプトの日常生活に登場するパン、チーズ、ぶどう酒、ビール、家畜から宗教戦争、民族紛争に至るまで、5,000年前も現在も、人間の基本的な生活スタイルは、ほとんど変わっていないのに驚く。

一方、今、我々の近くにある音楽は、5,000年前はどうだったのか、という思いがめぐる。一緒に旅をした吉村先生に聞いてみた。（古代エジプト時代は、祝祭、儀式、宴会

などがよく催され、そこでは必ず音楽が奏でられた。そして音楽に合わせて歌が歌われ場を盛り上げた。楽器も管楽器、弦楽器、打楽器などが現存しており、基本は現在の楽器とほとんど変わらない。また歌を職業としていた人も居たらしい。ただし楽譜は存在せず、その曲調はいまだ定かではないという。）

エジプトはナイル川抜きには語れないが、このエジプトの母なる川、ナイルは世界一長い川だ。この源流地帯で、人類が誕生したと言われている。人類は何万年もかかって、ナイル川沿いに、ヨーロッパ、アジア、南北アメリカへと北上移動したらしい。このナイル川の源流「ビクトリア湖」は九州の約2倍の大きさで、世界第2位の湖だ。その桁違いの大きな面積を誇る湖が、汚染に悲鳴を上げているという。

原因はナイルパーチという本来ビクトリア湖には生息しない、スズキ系の淡水魚を養殖のため、約30年前に放流した事に始まる。体調1m～2m、重さ100kg～200kgにも成長するこの魚は、白身で脂がのっているため、輸出用の食材として目を付けられた。

日本でもスーパーでよく見かける白身魚や、コンビニの弁当にも入っている白身魚のフライ等が、ナイルパーチだ。この魚は食欲がものすごく、ビクトリア湖に生息している在来種をどんどん捕食して、大繁殖した。

従来、在来種が湖の生態系のバランスを保っていたのだが、そのバランスが崩れ、藻の異常繁殖により、湖の酸欠を招き、今、世界第2位の大きさを持つこの湖が危機に直面しているというのだ。

九州の2倍の面積に近い大きさを誇る湖も、たった1種の魚の放流で破滅する可能性があるという。今、地球環境問題の典型になっているのだ。「音楽の発達は文化の成熟の歴史でもある。」と吉村先生は言ったが、今、我々は身の回りであらゆる音楽を楽しみながら、人類の文化発達の源流となった、ナイル川の源流「ビクトリア湖」の「ナイルパーチ」を、今日も食べ続けている。

なぜか最近、ワールドミュージックが好きになってきた。音楽の持つ歴史的影響力を考えながら……!

Contents

Special Feature

日本レコード協会65周年特集

日本のレコード産業 半世紀の歩み 2

寄稿：富澤一誠氏

<フォーク同窓会パーティ>という新しい動きに注目！ 7

文化審議会著作権分科会

法制問題小委員会・私的録音録画小委員会中間まとめ等の概要 8

第5回RIAJセミナー「『本屋大賞』はなぜ生まれたか？」開催 10

INFORMATION SQUARE 11

Monthly Production Report 13

Gold Album+...認定 14

日本のレコード産業 半世紀の歩み



日本のレコード産業は20世紀後半の50年間、世界の中でも例を見ない成長を遂げ、今やアメリカに次ぐ世界第2位のレコード大国となりました。21世紀に入り世界的に音楽産業はマイナス成長に転じ、日本も厳しい環境下にあります。一部に明るい兆しも見られるようになりました。

日本レコード協会は1942年に設立され、今年は65周年の節目の年にあたります。今年度、当協会は「レコード産業の復活を果たす」を事業目標に掲げ、さまざまな施策を展開していますが、業界の将来展望、方向性を探る参考資料として生産金額データが整備された1952年から現在に至る業界の変遷を一覧表に取りまとめて紹介します。

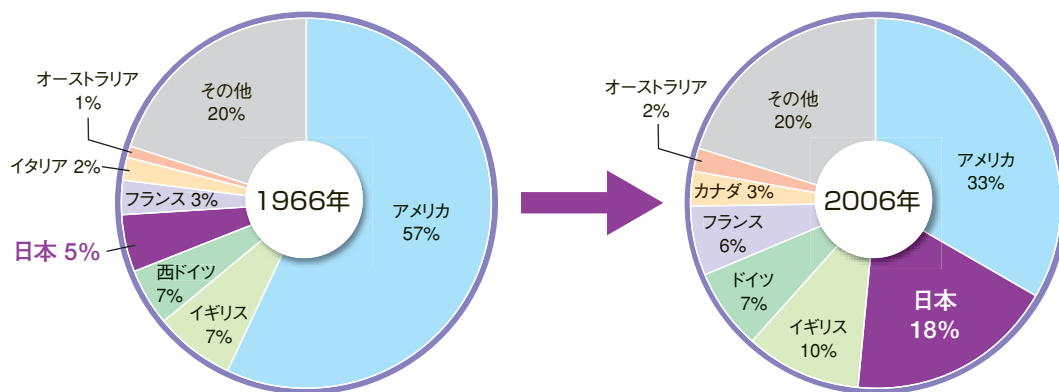
世界のレコード産業における日本の位置

40年前の世界のレコード産業売上は、アメリカが57%を占め、日本は5%で世界第4位の実績でした。現在はアメリカが33%に後退し、日本は18%で第2位に躍進しました。

アメリカ、日本、イギリス、ドイツ、フランスの上位5カ国の顔触れは40年間変わらず、これら5カ国による売り上げが依然、全世界売上の3/4を占めています。

■売上高(メーカー出荷実績) 国別構成比

資料：国際レコード産業連盟 (IFPI)



※ 2006年は音楽配信売上を含む

日本のレコード産業の年別生産実績データを基に、業界を成長期と低迷期等に分け、それぞれの

時代背景を社会経済と業界の両面から概括してみました。

1. 黎明期(1942~1960年)

1945年に終戦を迎え、国民は衣食住の確保に追われ、レコードの購入は一部富裕層の娯楽に止まっていました。当時協会加盟社は5社で、レコード店も僅か1,600店程度にすぎません

でした。53年にはLPが、58年にはステレオが発売になり、ラジオやTVからは音楽が流れ、一般の人々の間でレコードへの関心が少しずつ高まりを見せていました。

2. 高度成長期(1961~1980年)



日本レコード大賞ロゴ

戦後のベビーブームで生まれた団塊の世代が成人に達し、彼らはさまざまな音楽のムーブメントを創り出しました。プレスリーやビートルズの影響を受け、ロカビリーやグループサウンド、フォーク、ニューミュージックの流れを生み出し、邦楽アルバム市場が大きな伸びを遂げました。また59年に日本レコード大賞が始まり、60年にはカラーテレビの本放送が開始され、新人歌手のオーディション番組から生まれたアイドルが若者世代を席巻しました。

この結果、50年代末には40%に満たなかった邦楽の割合が、80年には74%を占めるようになりました。

FM放送の開始でラジカセやFM誌が売れ、エアチェックで手軽に音楽を手に入れ、モータリゼーションの動きと相まって音楽を聴く空間が

家庭内から屋外に拡がりました。

この間、国策による資本の自由化が進み、レコード会社資本も67年には50%が自由化され、68年のCBSソニーレコードを筆頭にメジャーレーベルによる合併会社設立が相次ぎました。流通においても73年には資本の100%が自由化となりましたが、タワーレコードなど外資系大型店が日本でチェーン展開を始めたのは80年代に入ってからのことでした。

また、著作権法の整備も進み、71年には現行法の新著作権法が施行され、75年にはベルヌ条約(パリ改正条約)、78年にはレコード保護条約の国際条約にも加盟しました。

こうした20年間の高度成長期を経て、80年代末には当協会加盟社は20社に、レコード店も8,000~9,000店に達し、世界のレコード産業で日本は13%の売上構成を占めるに至りました。

81年の札幌に次ぎ、渋谷にオープンしたタワーレコード2号店



3. 停滞期(1981~1984年)

過去20年以上にわたり右肩上がりの成長を遂げてきた日本のレコード産業は、81年に初めて前年割れの実績となり、以降、84年まで4年連続の停滞を余儀なくされました。

ステレオLPが発売から20年以上経過し、メディアとしての魅力が薄れるとともに、中心購買

層の若者人口が減少し、TVゲームや東京ディズニーランドなど他レジャーとの間で厳しい競争が続きました。

また、80年に貸レコード1号店が出現し、85年に貸与権が付与されるまでの間、業界は日夜その対策に追われた時期でもありました。

4. 回復成長期(1985~1998年)

82年に発売され85年から本格的普及期に入ったCDは、業界の停滞を打破し、回復成長の牽引車となりました。団塊の世代ジュニアの成人人口が再び200万人を超えるとともに、中高年層で

始まったカラオケブームが若年層にも拡大し、Jポップを中心とする音楽への関心が再び大きな高まりを見せました。

90年代に入ると、TVドラマの主題歌やCMタ

イアアップによる大型ヒットが続出し、メーカーもTVスポットや新聞広告などを活用し、大量宣伝、大量販売時代に入りました。この結果シングル、アルバムを合わせ90年には5作品にすぎなかったミリオンセラーが、ピークの98年には48作品に達しました。ベスト盤や洋楽のコンピレーション盤も人気を博し、ミリオンセラーの一角を占めるようになりました。

この結果90年代初め一般経済は、バブルが崩壊し不況に苦しむ中であって、レコード業界はミリ

オン効果もあり、停滞期のマイナスをカバーする回復成長を遂げました。

80年から98年に至る停滞期と回復成長期を合わせた18年間でレコード業界の生産実績は2.1倍に伸びましたが、この間、日本のGDPも2.1倍に成長しており、同じ歩みを辿ってきました。



日本ゴールドディスク大賞ロゴ

5. 低迷期(1999~2004年)

90年代末から21世紀初めにかけて、レコード業界は6年連続のマイナス成長に転じ、04年の業界規模はピーク時の98年に比べ29%の減少となりました。その最大要因として、インターネット上の違法ファイル交換やCD-Rによるクローンコピーの拡大などが挙げられます。こうした問題は世界のレコード産業にとっても共通するものであり、欧米各国もミリオンセラーの減少が続くなど世界同時不況の様相を呈しました。

そのため各国のレコード産業は、業界の秩序維持に向けて違法対策や著作権啓発活動を強化し、現在も継続して取り組んでいます。

また、少子高齢化により若者人口は再び減少し、新たな音楽のトレンドが生まれにくくなり、CDも登場から20年近くが経ち、若者の間に急速に普及した携帯電話の通話料やTVゲームにCDの売り上げが影響されるようになりました。

6. 変革期(2005年~)

インターネットのブロードバンド化や第3世代携帯電話の普及に伴い、音楽配信サービスが成長し、レコード産業は今や商品形態だけでなく、流通やプロモーション方法も含め大きな変革期を迎えています。特にわが国は、携帯電話の「着うた」、「着うたフル」のマーケットが急成長し、インターネット配信や音楽DVDビデオも加えた音楽ソフト全体の実績は、05年、06年と連続し僅かながら前年を上回る伸びを遂げてきました。この間、CD売上もそれまでの2桁落ち込みから1桁に縮小し、徐々に下げ止まり感が出てきました。

レコード産業上位10カ国中、昨年、売り上げが伸びたのは日本だけでしたが、内訳を見ると、音楽配信と音楽DVDがそれぞれ12%を占めたものの、76%がCDであり、レコード産業の本格的

復活に向けては今後もCD売上の回復が強く求められます。

企画制作面では、中高年層をターゲットにした作品がヒットし、クラシックや邦楽のコンピレーションアルバムも人気を集めるなど、購買層に変化が起こりつつあります。

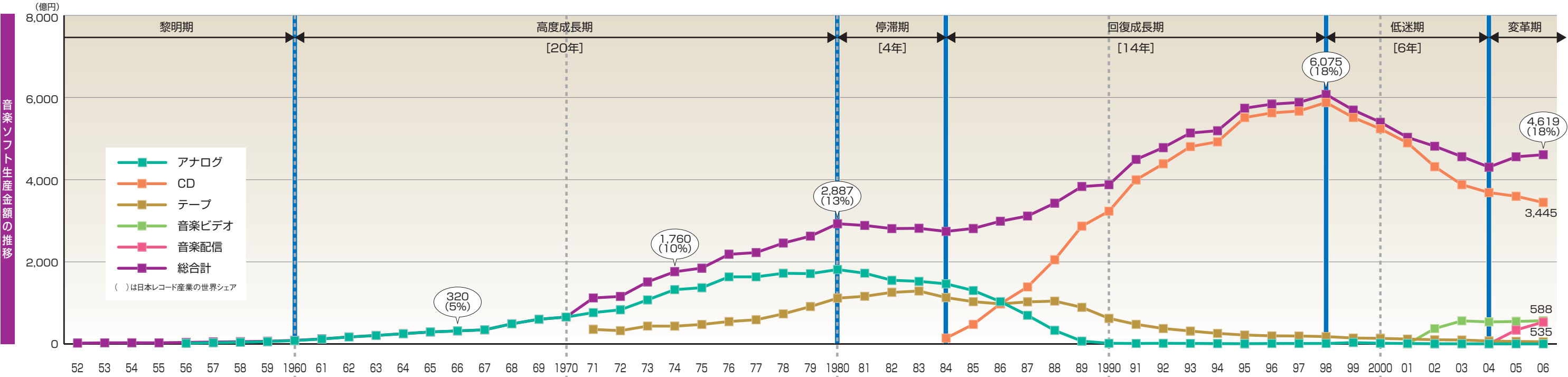
また、音楽DVDとCDとのセット商品が人気を集めたり、配信の人气がCDのヒットにつながるなど、さまざまな取り組みが功を奏しつつあります。



音楽ソフトの企画幅は無限にあり、音楽を伝える手段も多様化の一途を辿っています。高度情報化社会を迎え、業界もパラダイムシフトが求めら

れていますが、2005年以降の変革期を次の回復期につなげるべく、当協会は引き続き業界環境の整備に取り組んでまいります。

日本のレコード産業半世紀の歩み



業 界 環 境	商品・形態	(53) LPレコード発売		(58) ステレオレコード発売		(66) カセットテープ発売		LP廉価盤発売		(82) CD発売			(87) DAT発売		(92) MD発売		(94) ビデオCD発売		(99) スーパーオーディオCD発売 (99) DVDオーディオ発売 音楽DVD (01) iPod発売		音楽配信										
	音楽ブーム	歌声運動		ロカビリーブーム		ツイストブーム		GSブーム		フォークブーム アイドルブーム		ディスコブーム		ニューミュージックブーム		ダンスブーム		(92) 通信カラオケ開始 (若年層へ普及)				韓流ブーム									
		ジャズ喫茶		日劇ウェスタンカーニバル		(66)ビートルズ来日		カラオケ登場		洋楽ブーム		つま恋コンサート				ミリオンヒット多発		ベスト盤		邦楽コンビ											
		邦楽比率		37%		41%		61%						74%		73%		79%		74%											
業 界 環 境	アーティスト	美空ひばり		島倉千代子		石原裕次郎 ザ・ピーナッツ		北島三郎 御三家 (橋幸夫、舟木一夫、西郷輝彦) 3人娘 (園まり、中尾ミエ、伊東ゆかり)		ザ・タイガース ザ・ビートルズ ザ・ベンチャーズ		サイモン&ガーファンクル		井上陽水 荒井由実 吉田拓郎 森進一 五木ひろし 新御三家 (西城秀樹、郷ひろみ、野口五郎) 天地真理 花の中三トリオ (山口百恵、桜田淳子、森昌子) 沢田研二 カーペンターズ イーグルス ビリー・ジョエル ABBA		ピンクレディー サザンオールスターズ たのきんトリオ (田原俊彦、野村義男、近藤真彦) 松田聖子 中森明菜 小泉今日子 マイケル・ジャクソン マドンナ		BOØWY レベッカ		光GENJI CHAGE&ASKA ZARD		WANDS Mr.Children		安室奈美恵 B'z trf		宇多田ヒカル SMAP		モーニング娘。 水川きよし		オレンジレンジ 倭田来未 コブクロ	
	放送	(53)テレビ放送開始		(60)カラーテレビ放送		深夜放送		FM放送開始		エアチェック流行		歌番組隆盛		(87)BS放送開始		(92)CS放送開始		(96)CSデジタル インターネット普及		(00)BSデジタル		ブロードバンド									
	雑誌 ファッション等	(52)平凡、明星創刊		(59)第1回日本レコード大賞		(64)平凡パンチ創刊		(72)ぴあ創刊		(84)FRIDAY創刊		(87)第1回日本ゴールドディスク大賞																			
						アイビールック ミニスカート		竹の子族		ジュリアナ東京																					
業 界 環 境	レコード会社			(67)製造50%資本自由化		(75)製造100%資本自由化														インディーズ											
	協会加盟レコード会社 5社		他業界からの進出		専属作家制度後退		メジャーレーベルの出資		制作専門会社誕生		20社		30社		44社																
業 界 環 境	販売・流通網			レコードの通信販売開始		(73)流通の100%資本自由化		タワー・HMV・バージン進出		(89)レコード物品税廃止		アマゾン開業・ネット通販拡大		(00)レーベルゲート設立		(01)レーベルモバイル設立		7,400店													
	レコード店		約1,600店		約4,000店		販売網の拡大		約8,000店		約9,000店																				
業 界 環 境	著作権法 国際条約等			(71)新著作権法 (現行法)施行		(75)ベルヌ条約 (パリ改正条約)		(78)レコード保護条約		(85)貸与権		(89)実演家等保護条約		(92)私的録音録画補償金		(94)WTO		(98)送信可能化権		(05)還流防止措置											
社 会 経 済 環 境	GNP/GDP (~79/80~)	6兆円		11兆円		29兆円		53兆円		81兆円		113兆円		204兆円		246兆円		307兆円		415兆円		501兆円									
	総人口	8.6千万人		9千万人		10千万人		11千万人		12千万人		12.8千万人																			
	内、新成人 (20才)	195万人		174万人		236万人		246万人		178万人		165万人		207万人		139万人															
	(54) 東京モーターショー		(64) 新幹線開通		(69) 東名高速開通		(72) 札幌冬季オリンピック		(83) 東京ディズニーランド 開園		(88) 東京ドーム落成		(98) 長野冬季オリンピック		(02) 日韓ワールドカップ																
社 会 経 済 環 境	3種の神器 (洗濯機・TV・冷蔵庫)		60年安保		3C (カー、クーラー、カラーTV)		TVゲームブーム																								

出典:内閣府、総務省統計局

今回の特集にあたり、長年さまざまな角度から音楽業界を見てこられた、音楽評論家の富澤一誠氏に寄稿していただきました。

<フォーク同窓会パーティ>という新しい動きに注目!



富澤一誠氏

2006年9月23日に行なわれた『吉田拓郎&かぐや姫 コンサート・イン・つま恋2006』は、約3万5千人のファンを集めて大成功に終わりました。この31年ぶりの『つま恋コンサート』が起爆剤となって、中高年に再び“フォーク・ブーム”が起こりつつあるようです。『つま恋コンサート2006』で拓郎、かぐや姫の元気な姿を見て「僕(私)もまだできる」と思った人はたくさんいるはずです。

かつてフォークは“若者たちの歌”でした。あの“黄金のフォーク・ブーム”(72年から79年ごろ)から30年程が経ち、かつての若者たちは中高年となり、07年からは団塊の世代の一斉退職が始まりました。定年後の人生をどう生きるのか?が大きなテーマですが、そんなときに31年ぶりの『つま恋コンサート2006』は“あの頃の自分”を思い出させてくれたのでした。『つま恋コンサート2006』によって、私たちは31年前の『つま恋コンサート1975』時代にタイムスリップしてしまいました。そして“あの頃のぼく”に出会ったのです。その結果、現在の私と“あの頃のぼく”がなりたいと思っていた私、との間の微妙な“人生のズレ”を改めて認識してしまったのです。

アーティストたちも、初めて音楽を志した頃の自分がめざした自分と、現在の自分との間のズレに悩んでいます。その“人生のズレ”はアーティストとファンとの共通のテーマです。31年ぶりに共通のテーマを見つけたアーティストとファン、これが現在の“フォーク熱”の源流なのです。

この源流からフォーク熱が各地で起こっています。中高年が生ギターを弾き語るライブハウスふうの“フォーク酒場”が全国各地に誕生したり、高円寺レコードなどフォーク専門CDショップなどが注目されたり、なによりもかつてのフォーク・シンガーたちは各地で引っ張りだこの人気者となっています。

近年、音楽の“同窓会”とも呼ぶべきコンサートや企画が増えています。中心となっているのは、70～80年代に数々の名曲を生み出したフォーク、ニューミュージックのアーティストたち。かつては個々で活動していた者同士が、同じステージに立ち、かつてのヒット曲はもちろんのこと、他のアーティストのナンバーを共演したりするケースも増えています。そこには、しがらみやプライド、打算的な匂いはなく、自分たちが活動してきた時代の“名曲”を後世に残していきたい、歌い継いでいきたいという思いが強く存在しています。観客もまた、こうしたステージを心地よく受け入れており、ステージを包む雰囲気は、アーティストと観客という垣根を越え、同じ時代を体感した“同窓会”の様相を呈していると言ってもいいでしょう。いろいろなアーティストの組み合わせが、現在全国で歌声を響かせているこの現象を、〈同窓会パーティー〉と私は名付け、全国レベルで静かな盛り上がりを見せているこの新しいコラボレーションに期待しています。

富澤一誠(とみさわ いっせい)

音楽評論家。1951年、長野県生まれ。71年、東大を中退して音楽評論活動始める。以来、J-ポップス専門の評論家として幅広く活躍。著書はベストセラーになった「松山千春・さすらいの青春」など全54冊。現在、FM NACK5<WEEK-END PARTY～forever young>(毎週土曜深夜0時～3時)、TOKYO FM<SPIRAL OF MUSIC>(毎週金曜夕方5時～5時半)、STAR digio<ミュージック・ゼミナール>(毎週土曜夜11時半～0時)などのプロデューサー&パーソナリティーとして熱いメッセージを送っている。

主な活動例

① Song for Memories

鈴木康博(元オフコース)、山本潤子(元赤い鳥→元ハイ・ファイ・セット)、細坪基佳(元ふきのとう)による〈同窓会パーティー〉

② 伊勢正三・太田裕美・大野真澄

アコースティックナイト(アコースティックイブニング、アコースティックコンサート)と銘打ったコンサートを全国で精力的に展開中。

③ V3 (VOICE THREE)

森山良子、山本潤子、白鳥英美子(元トワ・エ・モワ)による女性ヴォーカル・ユニット。

④ 細坪君と三浦君

細坪基佳と三浦和人(元雅夢)によるデュオ。全国でコンサートを行っている。

⑤ 座・ジローズ

杉田二郎と細坪基佳による、現代版“ザ・ジローズ”。

この他にも、イルカ、尾崎亜美、加山雄三、谷村新司、南こうせつなどこうした動きに積極的なアーティストは枚挙にいとまがありません。

文化審議会著作権分科会 法制問題小委員会・私的録音録画小委員会中間まとめ等の概要

10月12日に文化審議会著作権分科会が開催され、同分科会法制問題小委員会と私的録音録画小委員会が取りまとめた中間まとめ・中間整理が了承されましたので、概要の一部を紹介します。これらの中間まとめ等は、10月16日から11月15日までの間、意見募集に付されており、その結果を踏まえた上で、来春の最終報告書取りまとめに向けて更なる検討が行われる予定です。

特に、著作権法第30条の適用範囲の見直しのうち、「違法録音録画物、違法サイトからの私的録音録画」を同条の適用範囲

から除外することにつきましては、現在、当協会において、適法サイトの識別マーク表示の運用開始に向けた検討を進めているところです。

なお、両小委員会の中間まとめ等に関する当協会の意見内容につきましては、次号で紹介いたします。

■「法制問題小委員会 中間まとめ」に関する意見募集の実施について
<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=Pcm1010&ID=185000283&OBJCD=&GROUP=>

■「私的録音録画小委員会 中間整理」に関する意見募集の実施について
<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=Pcm1010&ID=185000284&OBJCD=&GROUP=>

法制問題小委員会 中間まとめ(概要) (※以下、当協会事務局でまとめた内容です)

1. 「デジタルコンテンツ流通促進法制」について

【検討内容】

デジタルコンテンツ流通促進のための法制度等を2年以内に整備

【検討結果】

過去のテレビ番組等の二次利用を巡る問題としては、ビジネス上の問題等も大きい、著作権契約に関する問題についても、

権利者不明等により契約交渉が容易でない場合の利用円滑化方策などを検討すべきである。また、インターネット上の新たな創作・利用形態から生じる著作権法上の課題にも対応できるよう、実態等を調査する必要がある。

2. 海賊版の拡大防止のための措置について

(1) 海賊版の譲渡のための告知行為の防止策について

【検討内容】

海賊版の譲渡告知行為を権利侵害と位置付ける法的措置の創設

【検討結果】

インターネット上での海賊版の譲渡告知行為を、「情を知って」(＝事情を承知して)等、一定の要件下で著作権侵害行為とみなすのが適当である。(インターネット以外の広告媒体については、別途検討)

(2) 親告罪の範囲の見直しについて

【検討内容】

著作権等侵害罪の非親告罪化

【検討結果】

著作権等侵害を一律に非親告罪にすることは不適当である。また、一部の犯罪類型を新たに非親告罪化することについても、社会的な影響等を見て慎重に検討することが適当である。

3. 権利制限の見直しについて

(1) 薬事行政関係

【検討内容】

製薬企業等から医療関係者に対する文献複製物の提供に係る権利制限の創設

【検討結果】

補償金支払いの下、権利制限が適当である。

(2) 障害者福祉関係

【検討内容】

視覚障害者等に係る権利制限範囲の見直し(例:視覚障害者向け録音図書を作成主体を公共図書館にまで拡大する)

【検討結果】

障害者の情報アクセスの観点から、障害者が著作物を利用で

きる可能性をできる限り確保する方向で検討すべきである。ただし、健常者への流出防止策などについて考慮する必要がある。

(3) ネットオークション等関係

【検討内容】

ネットオークション等における美術作品等の画像掲載に係る権利制限の創設

【検討結果】

商品紹介のために行う画像掲載は売主の義務として必要不可欠であり、権利を制限するのが適当である。ただし、画像掲載が権利者の利益を不当に害することのないよう、考慮することが必要である。

4. 各ワーキングチームの検討事項

(1) 検索エンジンの法制上の課題

(デジタル対応ワーキングチーム)

【検討内容】

検索エンジンサービスの提供に係る法的対応

【検討結果】

権利制限が適当であるが、権利制限の対象範囲等の論点について早急に結論を得るとともに、具体的な立法措置の在り方を明確にする必要がある。

(2) ライセンシーの保護等の在り方

(契約・利用ワーキングチーム)

【検討内容】

著作権契約のライセンサーが破産した場合におけるライセンシーの保護等

【検討結果】

著作物を利用する権利について、新たな登録制度を創設することが適当である。制度設計の詳細については継続検討とする。

(3) いわゆる「間接侵害」に係る課題等

(司法救済ワーキングチーム)

【検討内容】

物理的な行為主体以外の者に対する差止請求権の在り方

【検討結果】

差止請求の対象を明確化することが適当である。ただし、その要件については継続検討とする。

私的録音録画小委員会 中間整理(概要)

(※以下、当協会事務局でまとめた内容です)

1. 著作権法第30条の適用範囲の見直しについて

(1) 30条の適用範囲から除外することが適当であるとの意見が大勢であった利用形態

① 違法録音録画物、違法サイトからの私的録音録画
携帯電話向け音楽の違法サイトからのダウンロード等が適法ネット配信ビジネス等を阻害している実態等が見受けられる。

[30条の適用範囲から除外する場合の条件]

ア) 違法サイト等と承知の上で(「情を知って」)録音録画する場合や、明らかな違法録音録画物等からの録音録画に限定する。

※利用者への周知および適法サイトに関する情報の提供方法について運用上の工夫が必要である。

イ) 30条の適用範囲から除外する行為を「複製」一般ではなく「録音録画」に限定する。

ウ) 罰則の適用を除外する。

② 適法配信事業者から入手した著作物等の録音録画物からの私的録音録画契約による解決に委ねるのが適当である。

(2) 30条の適用範囲から除外することについて慎重意見が大勢であった利用形態

① 他人から借りた音楽CDからの私的録音

30条の適用範囲から除外しても、違法状態が放置されるだけの結果となる。

② レンタル店から借りた音楽CDからの私的録音、適法放送のうち有料放送からの私的録画

私的録音録画の対価が契約により徴収されている実態は確認できなかった。そして、利用者から私的録音録画の対価を徴収するような契約体系へ変更することは困難である。

2. 仮に補償の必要性があるとした場合における私的録音録画補償金の在り方

現行どおり、録音録画機器・記録媒体の提供行為に着目した制度設計が適当であるという意見が大勢であった。

【具体的な制度の仕組みの見直し】

(1) 象機器・記録媒体の範囲

機器・記録媒体の種類	補償金対象の適否
現行補償金制度の対象になっている機器・記録媒体分離型の録音録画専用機器・専用記録媒体	対象にすべきであることとおおむね了承
録音録画機能が附属機能でない機器のうち記録媒体を内蔵した一体型のもの (例：HDD内蔵型録画機器、携帯用オーディオ・レコーダー)	対象とすべきである意見が大勢
録音録画機能を含めて複数の機能がある機器でどの機能が主要な機能といえないもの (例：現在のパソコン)	意見の一致に至らず
録音録画機能を附属機能として組み込んだ機器 (例：留守番電話、携帯電話、録音機能付カーナビゲーション)	留守番電話を補償金対象としないことについては異論なし。 携帯電話、録音機能付カーナビゲーションについては、意見の一致に至らず
専用記録媒体以外の記録媒体	意見の一致に至らず

(2) 対象機器・記録媒体の決定方法

「政令で定める基準に照らして、公的な評価機関の審議を経て、文化庁長官が定める」という基本的方向性はおおむね承認された。

(3) 補償金の支払義務者

製造業者等を支払義務者にすべきとする意見も強く、意見の一致をみていない。

(4) 補償金額の決定方法

著作権保護技術の影響度を補償金額に反映できるようにすべきであることに異論はなかったほか、契約に基づく私的録音録画やプレイシフト・タイムシフト等の要素を反映させるべきであることについてもおおむね異論はなかった。

『『本屋大賞』はなぜ生まれたか?』開催

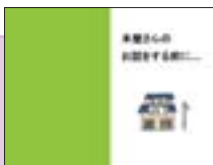
10月5日、当協会は第5回RIAJセミナー『『本屋大賞』はなぜ生まれたか?』を開催しました。

講師は『本屋大賞』生みの親のおひとり、NPO法人本屋大賞実行委員会理事、(株)博報堂ケトル代表取締役の嶋浩一郎氏。会場の日本青年館には販売店、卸店、レコード会社の方を中心に300名を超える方が集まりました。

冒頭、当協会マーケティング委員会古澤副委員長((株)ソニー・ミュージックディストリビューション代表取締役)より、「書籍業界も非常に苦しい中、書店の現場が立ち上がり需要喚起に取り組んでいます。ぜひ今日のセミナーでヒントをもらい、わが業界の活性化につなげていきたい」と挨拶がありました。引き続き、嶋氏からの講演が始まりました。

嶋講師のプレゼンテーション

まず、『本屋大賞』を取り上げた何本かのテレビニュースを紹介、『本屋大賞』の概要を説明した上で158枚のパワーポイント資料を駆使して重要ポイントの説明をされました。



「本屋さんの話をする前に魚屋さんの話をさせてください。」
築地の市場に行って、お客さんの顔を浮かべて魚を選び、
値段をつけて今日中に全部売り切ってしまう。
これが魚屋さんの常識



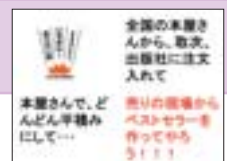
取り次ぎからきたダンボールを開けて、本を棚に入れるだけの本屋さんではお客さんも面白くなく、
いい本を作った作家も編集者もなにより本を売る本屋さんにとって不幸。

川上発想でなく、川下発想。売りの現場からアクションを起こせないか?

本屋さんが面白い本をすすめてくれたら本屋さんに行くのが楽しくなるはずだ!



そんな気持ちで作ったのが
「全国書店員が選んだ本屋さんがいちばん売りたい本『本屋大賞』」



というコンセプトで、このムーブメントを実現しました。

このムーブメント実現を可能としたのは、全国書店員の意見を収集し、投票を可能にしたインフラ「WEB本の雑誌(本の雑誌社)」と事務局運営のノウハウを持つ博報堂の存在があったのはもちろん重要な点ですが、もっとも大事な点は「自分たちも出版不況にアクションをおこしたい」と会費を払いつつ、手弁当で運営全体に参加した全国の本屋さんの熱意・意欲でした。

そして、目的を「賞をあげることでより売ること!」と捉え、全国の本屋さんで自主的なフェアを開催し、受賞作は受賞後、すべて30万部以上売り上げを伸ばし、「本屋大賞受賞作は売れる」というブランドを確立しました。

158枚のパワーポイントは「出版不況に一石を投じるしかけができました」で結ばれました。

講演終了後の質疑や参加者のアンケートで、嶋氏のプレゼンの構成力にじびれた、という意見が多数あり、大変参考にさせていただくことの多い講演でしたが、これだけ素晴らしいプレゼンをしていただいたことを受け、レコード業界でブランド化できる川下発のムーブメントをぜひ起こすべきだ、というご意見を真摯に検討していきたいと考えます。



RIAJ/PROMIC日本音楽のアジア展開に関する報告会 および第4回東京・アジアミュージックマーケット概要 説明会開催

9月26日、東京都港区の虎ノ門パストラルにおいて、当協会および(財)音楽産業文化振興財団(PROMIC)は、日本音楽のアジア展開に関する報告と第4回東京アジア・ミュージックマーケット(TAM)の概要説明を行いました。



アジア報告会の様子

当協会アジア音楽市場拡大委員会の米山委員長代行((株)BMG JAPAN取締役セールス&マーケティング本部長)の挨拶の後、当協会の田辺専務理事より、「アジア地域に対する日本コンテンツのライセンス実績」が報告されました。続いて、当協会業務部の阿部担当部長より「アジア音楽市場拡大委員会活動」および「中国における権利認証制度」の報告が行われました。

その後、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント国際グループ インターナショナルマーケティング部長の田中章氏、(株)ポニーキャニオン コンテンツビジネス部副部長の斉田秀之氏、エイベックス・グループ・ホールディングス(株)コーポレート企画本部国際戦略室プロジェクト推進部部長の飯島正人氏より、各メーカーのアジア展開事例報告が行われました。

最後に、PROMIC関専務理事より、ジャパン国際コンテンツフェスティバルのオフィシャルイベントでもある10月15日からの開催の第4回TAMの概要説明が行われ、報告会は閉会となりました。

佐藤顧問、吉田理事、慶應義塾大学寄付講座にて講義 「クリエイティブ産業研究Ⅰ・Ⅱ」



佐藤顧問

9月27日、慶應義塾大学の当協会寄付講座「クリエイティブ産業研究Ⅰ・Ⅱ」において、当協会の佐藤修顧問((株)ポニーキャニオン代表取締役会長)が「日本の音楽産業・特質と課題」をテーマに講義を行いました。

佐藤顧問は、音楽産業の歴史や音楽マーケットの現状、これを取り巻く環境の変化、音楽が社会的に与える意義など、自身の体験を交えて、詳細に講義を進めていきました。音楽産業を広い視野で捉えた講義に、受講生達は授

業終了後も質問を寄せるほど、熱心に聴講していました。

また、10月18日には当協会の吉田敬理事((株)ワーナーミュージック・ジャパン代表取締役社長)が「音楽ビジネスの構図Ⅲ～アーティスト発掘と宣伝まで～」をテーマに講義を行いました。



吉田理事

吉田理事は、自身の音楽業界での軌跡を、ビデオクリップや、新聞掲載記事などを使用し、具体的事例を挙げながら音楽ビジネスについて説明しました。

講義の最後には「音楽パッケージ売上は下降状況だが、音楽と人との関係は、昔も今も変わっていない。音楽業界の未来は明るいと思っています。」と結びました。

生野専務理事、JASRAC公開寄付講座で講義

10月13日、東京都千代田区の明治大学法科大学院において、当協会の生野専務理事が「ネットワークを用いた音楽配信 ～ビジネスの現状と課題～」というテーマで講義を行いました。

明治大学法科大学院では、(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)の支援を得て、2004年度より公開寄付講座を開講しており、今年度は「ネットワークと諸課題」というテーマのもと、多方面の識者がそれぞれの専門分野について講義を行っています。

講義では、日本および世界の音楽ソフト市場の状況、音楽配信のビジネスモデル、ネットワーク上の権利侵害に関する法規定等の説明に引き続き、違法な音楽配信への対策や健全な音楽配信市場の形成に向けた取り組みが紹介されました。

「日中韓文化デジタルコンテンツ産業フォーラム2007」 開催

9月30日から10月1日にかけて、大阪府のホテルニューオータニ大阪、シティプラザ大阪において、「日中韓文化デジタルコンテンツ産業フォーラム2007」が開催され、当協会業務部の阿部担当部長が参加しました。

今年で第6回目となる本フォーラムは、日本・中国・韓国の3地域間におけるコンテンツ産業(音楽・ゲーム・アニメ)に関わる人材交流・協力連携の促進を目的とし、2004年から(財)デジタルコンテンツ協会が経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課の委託を受け、開催しているものです。

第1日目の全体会議では、3カ国の代表から各国のコンテンツビジネスの概要報告、講演等が行われました。

第2日目の音楽分科会では、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント国際グループ インターナショナルマーケティング部長の田中章氏、(株)ポニーキャニオン コンテンツビジネス部副部長の斉田秀之氏、(社)日本音楽著作権協会国際部部長の渡部聡氏が、日本の配信マーケット、日本楽曲の海外音楽配信の現状と課題、配信の著作権集中管理について、説明を行いました。中国・韓国の音楽関係の代表からも各国の報告が行われ、3国間で活発な意見が交わされ、今後のアジア地域においてコンテンツ産業を浸透させていくための連携、相互促進となる意義あるフォーラムとなりました。

会員社のお知らせ

■入会 (11月1日付)

社名：株式会社よしもとアール・アンド・シー (正会員)

代表：代表取締役社長 橋爪健康

住所：〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-14 タイセイ吉本ビル

TEL：03-5217-6000

FAX：03-5280-3903

■退会 (10月31日付)

社名：株式会社アール・アンド・シー (正会員)

● 2007年10月会議メモ

- 10・3 マーケティング委員会
- 10・4 日本ゴールドディスク大賞委員会
- 10・9 法制委員会
- 10・10 レコード倫理審査会
- 10・12 情報・技術委員会
- 10・16 広報委員会
- 10・19 執行委員会
- 10・26 理事会
- 10・29 日本ゴールドディスク大賞委員会

「IFPIアジア・太平洋地域理事会」東京で開催

10月16日、東京都港区のウェスティンホテル東京において、「IFPIアジア・太平洋地域理事会」が開催されました。

同理事会は、IFPIのアジア・太平洋地域における最高議決機関であり、毎年1回開催されています。IFPIの歴史の中で、中央理事会 (IFPIの総会に次ぐ議決機関) は過去2回東京で開催されていますが、アジア・太平洋地域理事会は東京では未開催となっており、今年は、コ・フェスタの公式イベントである「東京アジア・音楽マーケット (TAM)」の開催にあわせ、初めて東京で開催されました。

「IFPIアジア・太平洋地域理事会」は、4大メジャーのアジア地域代表者、同地域8カ国のIFPI支部 (RIAJを含む) の代表者および専務クラス役員、IFPI会長、RIAA 代表者、インディー代表4名およびIFPIアジア地域事務所代表で構成され、ワーナー・ミュージック アジアパシフィック プレジデント ラッキー・ラザフォード氏が議長を務めています。今回は、TAMのオープニング・カンファレンスでキーノート・スピーチを行なったIFPIケネディ会長も理事会に参加した他、IFPI本部の各部門責任者、中国・北京のIFPI事務所、韓国のメジャー代表も出席し、総勢37名という過去最大級の参加者による開催となりました。その中で、当協会からは、石坂会長、田辺専務理事、畑法務部

副部長が出席し、インディー代表としてビクターエンタテインメント (株) 理事の堤孝夫氏も出席しました。

会議は、石坂会長のウェルカム・スピーチで幕を開け、IFPIケネディ会長からIFPIの各種活動の全般に関する報告があった後、全世界およびアジア地域のレコード演奏等の使用料徴収状況に関する報告、アジア地域各国のパッケージおよびデジタル配信の市場状況に関する報告等がありました。

また、各IFPI支部から、各国の市場状況、海賊対策の現状と課題、法制化の取り組み等に関する報告が行なわれました。日本からは、好調な音楽配信売上により音楽市場全体では2年連続で前年をクリアしたこと、著作権法30条の見直し等の法制化に関する検討状況、違法な携帯電話向け音楽配信に対する取り締りや啓発活動等の取り組みについて報告しました。

なお、今回の地域理事会開催にあわせて、10月15日にはIFPIアジア地域執行理事会 (4メジャーのアジア地域代表者、IFPI、RIAA、RIAJ等で構成)、17日にはIFPIアジア地域各国支部会議 (同地域8カ国のIFPI支部 (RIAJを含む) の専務クラス役員、IFPI、RIAA等で構成) も同じくウェスティンホテル東京で開催されました。

Monthly Production Report

2007年9月度レコード生産実績

9月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、数量で前年同月比88%の2,417万枚・巻、金額で同92%の302億円となりました。

このうち、オーディオレコードは、数量で前年同月比86%の2,090万枚・巻、金額で同91%の261億円となり、また、音楽ビデオは、数量で前年同月比102%の326万枚・巻、金額で同102%の42億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻／金額:百万円)

			9月実績						2007年1月～2007年9月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シ ン グ ル	8cmCD	邦	23	0	7%	13	0	34%	194	0	13%	100	0	33%
		洋	0	0	0%	0	0	0%	113	0	118%	21	0	79%
		計	23	0	7%	13	0	34%	307	0	20%	120	0	36%
	12cmCD	邦	3,768	18	97%	3,101	12	99%	45,631	23	92%	34,629	15	91%
		洋	86	0	295%	92	0	523%	457	0	127%	318	0	125%
		計	3,854	18	98%	3,193	12	101%	46,088	24	92%	34,947	15	91%
	小計	邦	3,791	18	90%	3,114	12	98%	45,825	24	90%	34,729	15	90%
		洋	86	0	294%	92	0	521%	570	0	125%	339	0	121%
		計	3,877	19	91%	3,206	12	100%	46,395	24	90%	35,068	15	90%
	12cmCD アルバム	邦	11,545	55	100%	16,272	62	102%	97,584	50	97%	140,193	59	99%
		洋	4,859	23	62%	5,931	23	67%	46,042	24	78%	56,100	24	84%
		計	16,404	78	85%	22,203	85	90%	143,625	74	90%	196,293	83	94%
CD 合計		邦	15,336	73	97%	19,386	74	101%	143,409	74	95%	174,922	74	97%
		洋	4,945	24	63%	6,023	23	68%	46,612	24	78%	56,439	24	84%
		計	20,281	97	86%	25,409	98	91%	190,020	97	90%	231,361	98	94%
アナログ ディスク		邦	11	0	77%	26	0	172%	127	0	113%	190	0	145%
		洋	38	0	407%	89	0	631%	106	0	139%	223	0	166%
		計	49	0	210%	115	0	394%	233	0	123%	413	0	156%
カセット テープ		邦	552	3	96%	480	2	87%	4,297	2	84%	3,390	1	80%
		洋	1	0	8%	0	0	5%	2	0	15%	1	0	12%
		計	552	3	95%	481	2	87%	4,299	2	84%	3,391	1	80%
その他		邦	11	0	136%	21	0	166%	223	0	143%	411	0	124%
		洋	10	0	113%	27	0	209%	163	0	169%	321	0	180%
		計	21	0	124%	48	0	188%	385	0	153%	732	0	144%
合 計		邦	15,909	76	97%	19,913	76	101%	148,055	76	94%	178,913	76	97%
		洋	4,994	24	63%	6,139	24	69%	46,883	24	79%	56,984	24	85%
		計	20,903	100	86%	26,052	100	91%	194,938	100	90%	235,897	100	94%

● 音楽ビデオ

		9月実績						2007年1月～2007年9月累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	3,035	93	114%	3,773	90	112%	32,390	91	111%	33,519	88	106%
	洋	219	7	50%	412	10	65%	2,887	8	84%	4,327	11	80%
	計	3,254	100	105%	4,185	100	105%	35,276	99	108%	37,846	99	102%
テープ・LDその他		8	0	9%	10	0	7%	257	1	47%	355	1	44%
合 計	邦	3,043	93	111%	3,782	90	108%	32,553	92	110%	33,843	89	104%
	洋	219	7	50%	412	10	65%	2,980	8	86%	4,358	11	81%
	計	3,262	100	102%	4,194	100	102%	35,534	100	107%	38,201	100	101%

● 音楽ソフト(オーディオ／音楽ビデオ合計)

			9月実績						2007年1月～2007年9月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			20,903	87	86%	26,052	86	91%	194,938	85	90%	235,897	86	94%
音楽ビデオ			3,262	13	102%	4,194	14	102%	35,534	15	107%	38,201	14	101%
合 計			24,165	100	88%	30,246	100	92%	230,472	100	92%	274,098	100	95%

● ビデオ(含音楽ビデオ)

			9月実績						2007年1月～2007年9月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD			6,608	100	90%	14,236	100	109%	67,980	99	93%	123,499	99	101%
テープ・LDその他			16	0	6%	35	0	12%	797	1	54%	961	1	37%
合 計			6,624	100	87%	14,271	100	107%	68,776	100	92%	124,460	100	100%

● オーディオ／ビデオ合計

			9月実績						2007年1月～2007年9月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			20,903	76	86%	26,052	65	91%	194,938	74	90%	235,897	65	94%
ビデオ			6,624	24	87%	14,271	35	107%	68,776	26	92%	124,460	35	100%
合 計			27,527	100	87%	40,323	100	96%	263,714	100	91%	360,357	100	96%

備考 1. 上記実績は、会員会社「46社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

音楽ソフト

邦 楽

アルバム

● トリプル・プラチナ

ケツノボリス5 グレイテスト・ヒッツ	ケツメイシ スキマスイッチ	2007.08.29 2007.08.01	TF BMG
-----------------------	------------------	--------------------------	-----------

● ダブル・プラチナ

LOVE PIECE VOCALIST 3	大塚 愛 徳永英明	2007.09.26 2007.08.15	AMI UM
--------------------------	--------------	--------------------------	-----------

● プラチナ

TODAY The Best of Dragon Ash with Changes Vol.1 The Best of Dragon Ash with Changes Vol.2 RADWIMPS4～おかずのごはん～	アンジェラ・アキ Dragon Ash Dragon Ash RADWIMPS	2007.09.19 2007.09.05 2007.09.05 2006.12.06	ES V V EMI
---	--	--	---------------------

● ゴールド

CLIMAX～DRAMATIC SONGS よろしくお願ひします 娛樂(バラエティ) Voyager THIS BOØWY DRAMATIC THIS BOØWY DRASTIC	VARIOUS KREVA 東京事変 V6 BOØWY BOØWY	2007.08.22 2007.09.05 2007.09.26 2007.09.12 2007.09.05 2007.09.05	MH PC EMI AMI EMI EMI
--	--	--	--------------------------------------

シングル

● プラチナ

永遠に 風の詩を聴かせて	KinKi Kids 桑田佳祐	2007.09.12 2007.08.22	JE V
-----------------	--------------------	--------------------------	---------

● ゴールド

CLAP & LOVE / Why 愛のうた talkin' 2 myself LOVE & TRUTH	絢香 倅田来未 浜崎あゆみ YUI	2007.09.05 2007.09.12 2007.09.19 2007.09.26	WJ AMI AMI SR
---	----------------------------	--	------------------------

洋 楽

アルバム

● ゴールド

ソングス・アバウト・ガールズ オール・ザ・ロスト・ソウルズ インフィニティ・オン・ハイウェイ 星月夜	ウィル・アイ・アム ジェイムス・ブラント フォール・アウト・ボーイ	2007.09.19 2007.09.19 2007.02.07	UM WJ UM
--	---	--	----------------

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、
音楽配信(着うた(R)、着うたフル(R)、パソコンダウン
ロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万毎に賞を設定		

基準単位：音楽ソフト・枚、配信・DL(ダウンロード)
※着うた(R)のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※AI：ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ／
AMI：エイベックス・マーケティング／BG：ビグラムレコー
ズ／BM：バーミオンレコード／BMG：BMG JAPAN／
C：コロムビアミュージックエンタテインメント／CR：日本
クラウン／DD：フライドライス／バウンディ／DF：デフス
ターレコーズ／DRM：ドリーミュージック／EMI：EMI
ミュージック・ジャパン／EP：アップフロントワークス(ゼ
ティマレーベル)／ES：EPICレコードジャパン／FK：ファ
イズエンタテインメント／FL：フォーライフミュージックエ
ンタテインメント／GN：ジェネオン エンタテインメント／
GZ：ギザ／HSE：DOMINO RECORDING CO/HOST-
ESS／HY：東屋慶名建設／JA：ジェイ・ストーム／JE：ジャ
ニーズ・エンタテインメント／JK：ユナイテッド・アジアエン
ターテインメント／K：キングレコード／KS：キューンレコー
ド／MH：ソニー・ミュージックダイレクト／ON：ビー・ヴィ・ジ
ョン／PAR：プライエイド・レコーズ／PC：ポニーキャニ
オン／PK：ピッコロタウン／PZ：ビザ・オブ・デス・レコー
ズ／QQ：バームビーツ／RR：ロードランナー・ジャパン／
SE：エスエムイーレコーズ／SI：ソニー・ミュージックジャ
パン インターナショナル／SM：ミュージックレイン／SN：
SENHA & CO.／SR：ソニー・ミュージックレコーズ／SV：
アニプレックス／TE：テイチクエンタテインメント／TF：ト
イズファクトリー／TJC：徳間ジャパンコミュニケーション
ズ／TLM：タイシタレーベルミュージック／UM：ユニバー
サルミュージック／V：ビクターエンタテインメント／
WJ：ワーナーミュージック・ジャパン／XL：アンリミテッ
ドグループ／YR：アール・アンド・シー

有料音楽配信(「着うた(R)」他)

■ 「着うた(R)」

邦 楽

● ミリオン

イケナイ太陽	ORANGE RANGE	2007.07.03	SR
--------	--------------	------------	----

● トリプル・プラチナ

Lifetime Respect—女編— 愛しい人へ	RSP ET-KING	2007.07.18 2007.02.01	SR UM
-------------------------------	----------------	--------------------------	----------

● ダブル・プラチナ

Beautiful World 時の描片～トキノカケラ～ 風の詩を聴かせて 空はまるで	宇多田ヒカル EXILE 桑田佳祐 MONKEY MAJIK	2007.07.23 2007.08.01 2007.08.06 2007.07.25	EMI AMI TLM AMI
--	---	--	--------------------------

■ 「着うたフル(R)」

邦 楽

● ミリオン

三日月	絢香	2006.10.04	WJ
-----	----	------------	----

● トリプル・プラチナ

永遠にともに	コブクロ	2004.11.19	WJ
--------	------	------------	----

● ダブル・プラチナ

Lifetime Respect—女編—	RSP	2007.08.08	SR
----------------------	-----	------------	----

● プラチナ

しおり Beautiful World	Aqua Timez 宇多田ヒカル	2007.05.09 2007.08.29	ES EMI
------------------------	----------------------	--------------------------	-----------

愛のうた ロード 大阪LOVER LIFE 君がくれたもの	倅田来未 虎舞竜 DREAMS COME TRUE 中島美嘉 HOME MADE 家族	2007.09.06 2004.03.02 2007.03.21 2007.08.22 2007.03.01	AMI CR UM AI KS
---	---	--	-----------------------------

● ゴールド

創聖のアクエリオン ギフト Fly Me To The Moon (In Other Words) -2007 MIX- 時の描片～トキノカケラ～ 結婚闘魂行進曲「マブダチ」 風の詩を聴かせて girls あなたへと続く道 君は僕に似ている ロビンソン 空も飛べるはず BRAND NEW WORLD GREEN DAYS シャナナ☆	AKINO ET-KING 宇多田ヒカル EXILE 氣志團 桑田佳祐 倅田来未 コブクロ See-Saw スピッツ スピッツ D-51 横原敬之 MINMI	2005.04.27 2007.09.12 2007.06.27 2007.09.12 2004.11.24 2007.09.03 2007.08.01 2006.09.29 2005.07.09 2006.03.25 2006.03.15 2006.07.26 2007.08.15 2007.08.01	V UM EMI AMI EMI TLM AMI WJ V UM UM PC AMI V
---	--	--	---

■ PC配信(シングル)

邦 楽

● ゴールド

Kiss & Cry 熱帯夜	宇多田ヒカル RIP SLYME	2007.06.01 2007.07.16	EMI WJ
-------------------	---------------------	--------------------------	-----------

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

10月15日～19日、コ・フェスタの公式イベントである「東京アジア・ミュージックマーケット(TAM)」が開催されました。5日間にわたる本イベントは、ビジネスセミナー、商談会、ショーケースライブなど、多岐に渡り、大盛況のうちに終わりました。第4回目となる今年は、ビジネスセミナーにおいて、IFPIジョン・ケネディ会長の基調講演も行われました。TAMの詳細は次号でご紹介します。



 **携帯音楽を守りたい**
違法な音楽ファイルの利用はやめましょう

<http://www.mamo-on.jp>



THE RECORD No.576 2007年11月号

社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 石坂 敬一
編集人 田辺 攻
発行日 2007年11月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

当協会は今年65周年を迎えましたが、これを機にレコード産業の半世紀を振り返ってみました。時代を象徴するアーティストや音楽には存在感の大きさを再認識させられます。そして、時代がどう変化しようとも、変わらないものは「いい音楽をつくり、人々に伝えていきたい」という想い。このレコード業界の中で、自分のやるべきこと、できることは何だろうと改めて考えさせられました。

(T)

Respect
our **MUSIC**